

文化・芸術

「Interval」

2012年、油彩・板

市川 裕径 (1959～2017年)

市川裕径は、桐生高等学校を卒業後、すいどーばた美術学院を経て米国に渡り、ニューヨークなどの美術学校で学びました。以後、プライベートアートディーラーの仕事に携わりながら、マンハッタン郊外に暮らし、制作を行いました。

黄色の画面全体に動きを与えているのは、支持体である板の木目そのものです。子どもころ、家の天井の木目をみながらいろいろ考えたという市川は、木目を生かした作品を制作しました。木目の濃淡が、水面のような、霧のような、漂う空気をつくりだし、その上に点描の色彩が軌跡をのこします。

市川は毎年、夏季休暇を利用して故郷桐生での個展を行っています。現在開催中の「桐生のアーティスト2020」に出品しているアーティストの方々とも、交流が深かったといえます。(池田)

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

